

小山広域保健衛生組合 第2期エネルギー回収推進施設整備・運営事業
第2回 事業者選定委員会 議事概要

日時：令和3年12月8日（木） 午後2時00分～午後4時00分

場所：小山広域保健衛生組合 2階会議室

出席者：【委員】荒井喜久雄委員

（順不同） 柿井一男 委員

大和征良 委員

古川 都 委員

山中利明 委員

寶示戸浩 委員

森川忠洋 委員

欠席者：【委員】田中 真 委員

【事務局】

《建設政策課》5名

《施設管理課》1名

《支援委託業者》4名

配布資料

次第

資料1 PFI導入可能性調査報告書（案）

資料2 要求水準書（案）概要版

資料3 要求水準書（案）

資料4 実施方針（案）

資料5 事業者の選定方法について（案）

資料6 非価格要素審査項目（案）

議事概要

1. 課長挨拶

・委員の過半数の出席により、本日の委員会は成立していることを報告

2. 委員長挨拶

・本会議の議題1以外は、事業者の公募・選定に関わる内容であるため、事業者が決定するまでは非公開とすることを報告

3. 議題

（1）事業方式について

事務局より、事業方式について、資料1に基づき説明し、以下の質疑が行われた。

森川委員：報告書に基づき、DBO方式が本事業に最適との説明があった一方、DBO

方式の場合、設計・施工についてはJ Vで地元企業が構成企業に入る可能性はあるが、運営についてはS P Cを設立して行うことになり、地元企業が入り込む余地はあまりないように思われる。地元住民の雇用の促進や地域の事業者の育成という観点からDBM+O方式を採用できないか、委員の意見を伺いたい。

荒井委員長：この件について、事務局の考えを述べていただきたい。

事務局：PFI導入可能性調査の結果のとおり、運転とメンテナンスを分けることで技術的なリスク増加、コスト増加が懸念されるため、事務局としては、報告書どおりDBO方式を採用したいと考えている。

荒井委員長：技術的なリスク増加について、具体的に説明願いたい。

事務局：たとえば施設の一部が故障した場合、経年劣化に伴う故障であればメンテナンス側の責任、運転側の不適切な扱いに伴う故障であれば運転側の責任となることが考えられるが、その要因が曖昧な場合、両者間で責任の押し付け合いが生じることが懸念される。

荒井委員長：施設を運営する上で、施設が悪いのか、取扱いが悪いのか、が明確でないと、円滑な運営が困難になり、更には新たなコストが発生することが懸念される。そのため、責任所在が明確であるDBO方式でやりたい、というのが事務局の考え、ということでしょうか。

事務局：その通りである。

荒井委員長：DBM+O方式の課題は、責任の所在が明確でないことにあり、このことが将来の揉め事の火種となることから、事業者も発注者も積極的にDBM+O方式を採用しない。全国的には、DBO方式は70～100件実績があるが、DBM+O方式は4件程度の実績しかない。

地元企業の活用については、総合評価方式で事業者選定を行う際の評価基準に、地元企業の活用方法について提案を求める事例が多い。その点を確実に担保した上で、事務局提案どおりDBO方式で本事業を進めるとというのが最も適当であると考えているが、いかがか。

(異議なし)

それでは、地元企業を活かすという条件を付した上で、DBO方式で本事業を進めることにする。

- (2) 要求水準書(案)について
事業者が決定するまで非公開。
- (3) 実施方針(案)について
事業者が決定するまで非公開
- (4) 落札者決定基準について
事業者が決定するまで非公開。

4. 令和3年度委員会日程について

第3回事業者選定委員会

令和4年3月16日(水) 午前10時～(※午後2時から変更)

<閉会> (午後4時00分)

以上